

# 検査数予測から推計した新規陽性者数の想定

資料 2 - 1

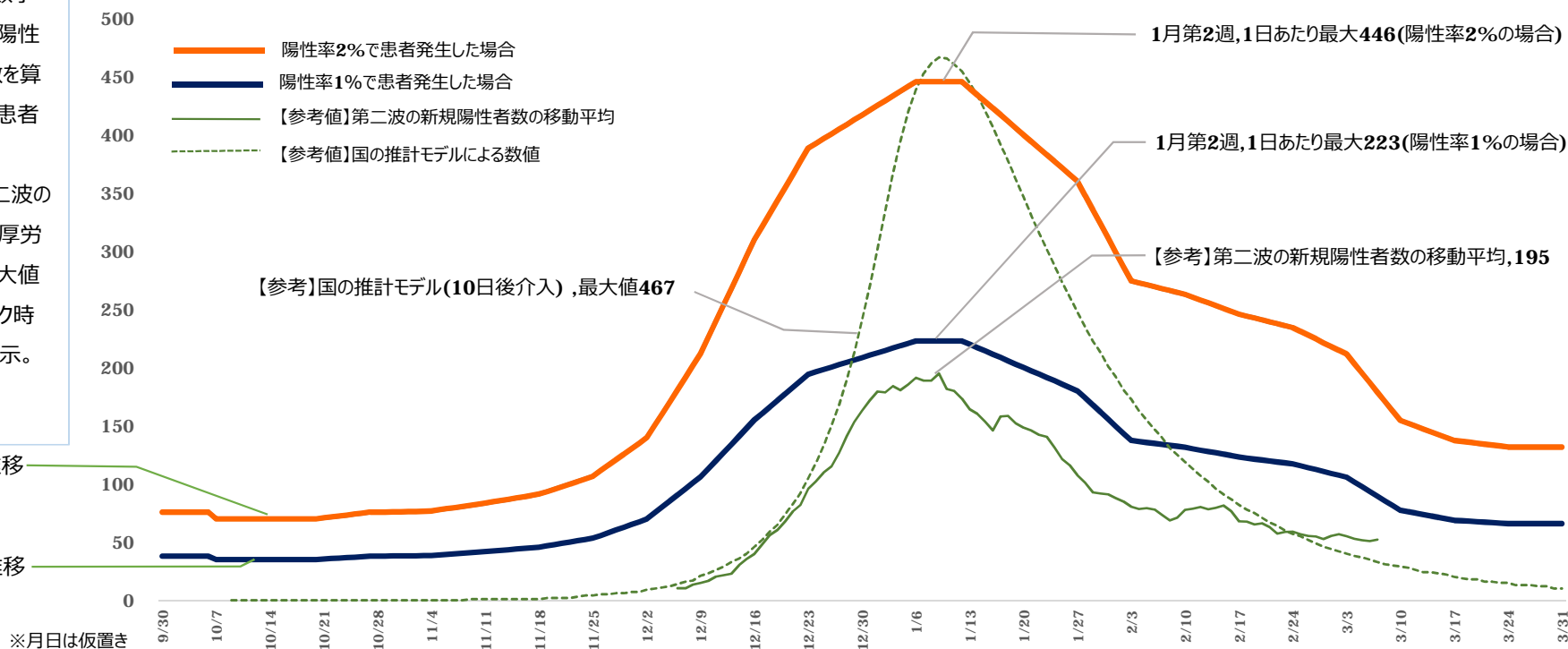
■インフルエンザ流行期の検査数予測に基づき、①陽性率1%、②陽性率2%の場合の新規陽性者数を算出。陽性率2%の場合の療養患者数の推計を実施。

■参考値は大阪府における第二波の新規陽性者数の移動平均値と厚労省の推計モデルによる数値の最大値をインフルエンザ患者発生ピーク時期（1月第2週）に合わせて提示。

※R2.1.29～6.13を「第一波」、6.14以降を「第二波」と総称

②陽性率が2%の場合の推移

①陽性率が1%の場合の推移



## 【療養患者数推計実施における重症率や療養期間などの考え方】

### ■重症率の設定の考え方

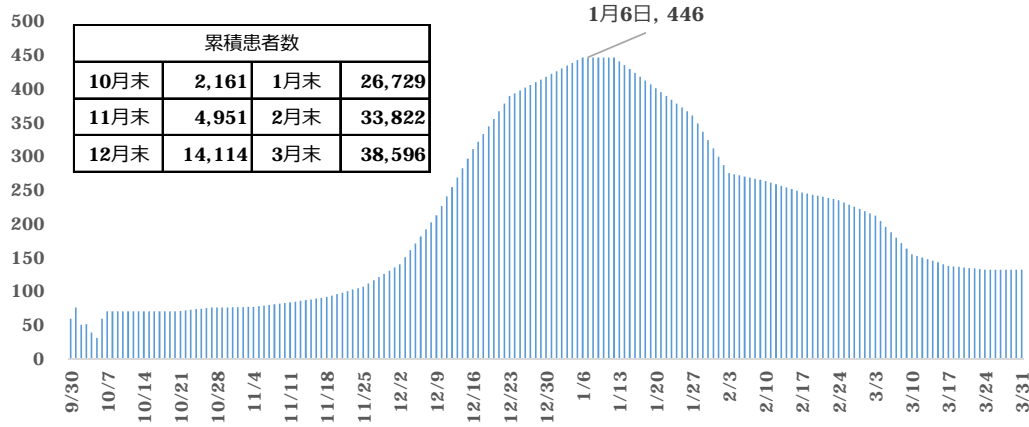
- 全陽性者中に占める重症者の割合：3.5%と仮定
- 40代以上の陽性者の重症率：5.8%(第二波実測値)、全陽性者中に占める40代以上の割合：60%(院内・施設内感染等クラスター発生リスクを踏まえ、第一波の実測値で設定)。
- 重症者のうち、31%は診断時に重症、69%は診断時は無症状・軽症だが、約3日後に重症化する(第二波実測値)。

### ■療養方法と期間の設定の考え方

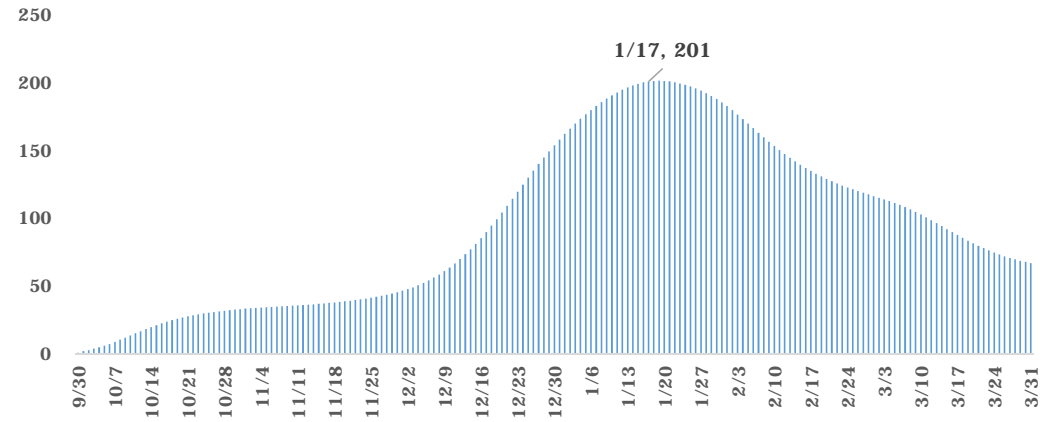
- 重症患者以外の陽性者のうち、22.8%は入院療養、34.7%は宿泊療養、42.5%は自宅療養となる(第二波実測値)。
- 重症患者の入院期間は約21日間で、軽症化した後退院する(第二波実測値)。
- 重症以外の入院療養者は約11日後に退院する(第二波実測値)。宿泊及び自宅療養者は約7日後に解除とする(第二波の宿泊療養者の療養期間から設定)。

# 【療養患者数推計】陽性率2%で新規陽性者が推移した場合

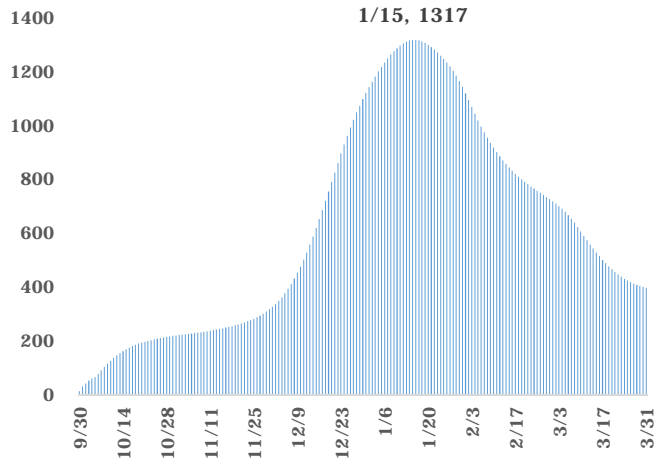
陽性者発生数



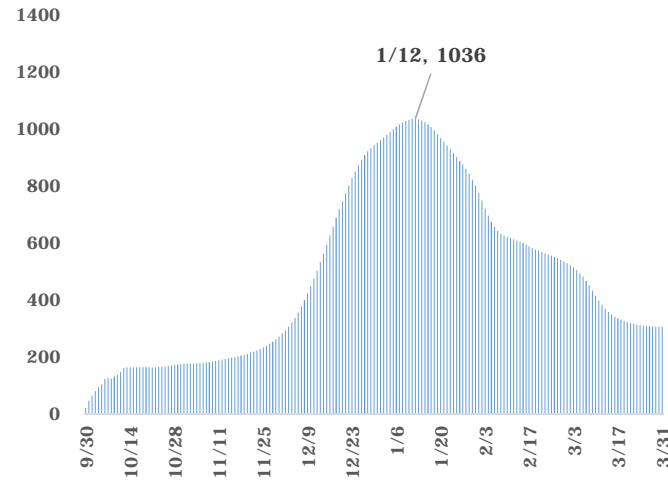
入院者数（重症）



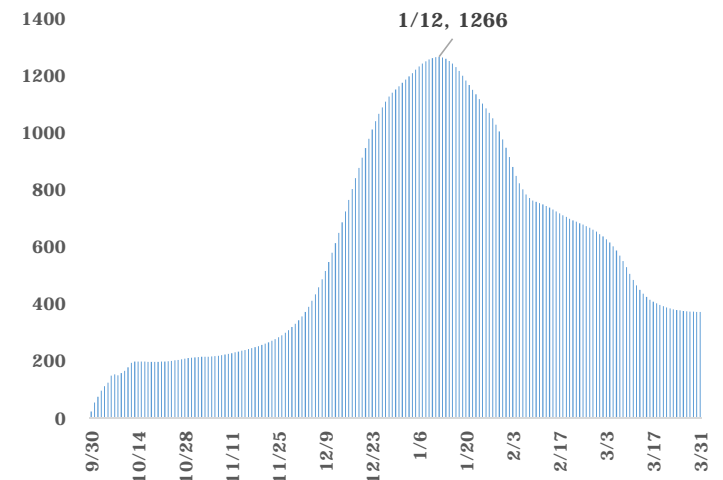
入院者数（軽症）



宿泊療養



自宅療養



インフルエンザ流行期の検査数予測に基づく検査体制のもと陽性率2%で新規陽性者が推移した場合、入院者数等は確保病床・施設部屋数の凡そ範囲内。※月日は仮置き